



最近、全国各地で取り組まれている、ごみ対策や脱炭素化。ニュースやインターネットで耳にしたり、目にする機会も増えました。では、この町に住む私たちにできることは何があるでしょうか。このシリーズでは、ごみ対策や脱炭素化に関連した身近な話題をご紹介します。「ごみのこととか、脱炭素化とか…」みんなで楽しく考えてみましょう。

連載第10回目のテーマは「下水処理の最新エネルギー事情」。下水処理の環境負荷を抑える取り組みとして、中川水循環センター（三郷市）で行われている下水を活用した発電についてお伝えします。

下水道で発電!? 下水処理の最新エネルギー事情

問 資源循環担当34・1111 内線292

2-15

中川水循環センターの温室効果ガス削減の取組

中川水循環センターでは宮代町のほか、春日部市や白岡市、杉戸町などの11市4町(処理人口:約142万人)の下水処理を行っています。処理によって生じる環境負荷の低減のため、昨年11月から「汚泥消化・バイオガス発電システム」を稼働し、温室効果ガスの削減に取り組んでいます。

〈中川水循環センターのバイオガス発電のしくみ〉



汚泥の焼却量が減ることで削減できる温室効果ガスは、年間約12,400t-CO₂(約3,100世帯分) だよ

埼玉県下水道マスコット クマニャンこちゃん

発生したバイオガスを発電に利用して削減できる温室効果ガスは、年間約4,600t-CO₂(約1,100世帯分) になる

埼玉県下水道マスコット クマムシくん

私たちが普段、料理や洗濯、お風呂やトイレなどで使っている水の量はどの位だと思いますか?なんと**1日240ℓ**(牛乳パック240本分)とされています。

その水が下水管を流れ、処理施設できれいになり、川に戻るために必要な**電力消費量は、日本全体では約75億kwh**。年間約**1,100億円**かかっていると言われています。

この大きな数字からも分かるように、下水の処理には、多くのエネルギーと費用が使われています。



みんなで守って処理効率アップ!! 環境にやさしい下水道使用のポイント

今回は、よりクリーンで効率的な下水処理のための工夫をご紹介します。最後に、環境にやさしい下水道使用のポイントをご紹介します。

下水道は、毎日使うもの。だからこそ、一人ひとりの協力が大きな成果につながります。皆さんのご協力をお願いします。

下水処理の負荷を減らすことができれば、処理に要するエネルギーを抑えることができます。ご協力をお願いします。



天ぷら油などの油分は流さない

汚泥を分解する微生物は油分が苦手。微生物が正常に活動できるように油は流さないようにしましょう。



トイレではトイレットペーパー以外は流さない

トイレットペーパー以外を流してしまうと下水が詰まる原因に。流さないように気を付けましょう。



ごみが排水口に流れないようにネットをつけるなどで工夫しよう

下水に流れるものは最小に。流れてくるごみが少なくなれば処理負担の軽減にもつながります。



きれいなまちづくり活動 里親制度 登録団体紹介

「自分で住む町を清潔できれいなまちにしたい」この様な思い、活動を支援しています。

問 環境推進担当 34・1111 内線294

2-15



全文はこちら

春日部特別支援学校 宮代分校



- 主な活動と活動地域
宮代分校から姫宮駅周辺等
- 活動中にやりがいを感じたこと
元気にあいさつしながら清掃しています。地域の方とも、つながりや交流が生まれているように感じます。
- これからの宮代町について
少しでも道路や施設周りがきれいになって、ゴミのない住みやすい宮代町になってほしいです。

(公社)埼玉県宅地建物取引業協会埼玉支部



- 主な活動と活動地域
東武動物公園駅周辺のごみ拾い
- 活動中にあった出来事
ガラス片などを拾うことがあり、危険なごみも無くして安心・安全に暮らせるお手伝いをしたいです。
- これからの宮代町について
一人ひとりができる小さな積み重ねで地球にも、地域にも優しいまちづくりを一緒にできたらと考えています。